

414  
A1404

別紙を通ジマパンガゼット新聞に抄譯し  
百供高覧候也



明治九年二月二十五日

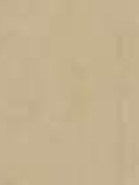
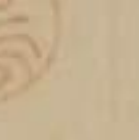
廢務課 統計室上等從鈴木重邦

大正十一年四月  
櫻井郵局

統計権頭 出仕 大島 属 百田



輔



3834



會計豫算論

大藏省

大藏省



其太ク早ク且ク完備セサルヲ以テ識者之ヲ  
可トセサリシ今ノ計表ハ人皆信シテ以為ク日  
本帝國會計大勢ヲ示シ且ツ其期スル所ヲ頭  
ス者ナリト蓋シ其表中統計スタチスチクノ釋言リレシヨヲ載セ甚タ  
貴重スヘキヲ以テナリ唯恨ラクハ其中自ラ深  
意ノ在ルアリテ獨リ其事由ヲ了悟スル者ハミ  
之ヲ大事トナスモ之ヲ紙上ニ就テ窺知ルコト得  
サルヲ然レモ其釋言アルヲ以テ一千八百六十八  
年大政維新以降此國政府ヨリ公布セシ所ノ者  
ニ於テハ最モ卓越ノ計表ト謂フヲ得ヘキナリ

蓋シ之ヲ整頓スルニ臨ンテヤ其勞苦ヲ極ムル  
マ言ヲ待クスシテ明カナリ而シテ其適宜ヲ斟酌  
シテ以テ各廳ニ分類收拾スルノ功ハ吾恐ル獨  
リ英才卓見ノ大藏卿ニアリテ省中ノ官吏其業  
ヲ贊成スルモノナキコト今ヤ在廷官吏ノ中ニ  
就テ其才智識見衆ニ被ンテ國人亦其然ルヲ許  
ス者頗ル其人アリト虽モ其英智ヲ以テ彼ノ不  
逮ヲ援ケ且ツ其与ニ謀ルニ足ルヘキノ能力ヲ  
有シテ以テ大隈重信公ヲシテ其今日ニ得ル所  
地位ニ至ラシメシ者吾亦其人ナキヲ恐ルナ

公ノ事ヲ執ツテ以来財政始テ整肅ニ近キヲ  
 得其所管、大藏省ヲシテ幾多ノ曖昧不正ノ事  
 ヲ免レシムルノ景状ヲ發生スルニ至レリ而シテ  
 今日事務ノ勢ニ於テ稍此成迹ヲ顕スモノハ則  
 公ノ才識尋常ニ卓越スルノ証アリ日本國大藏  
 省ヲ見ルニ近時ニ至ルマテ事務極メテ乱雜ニ  
 シテ未ダ醜行ヲ以テ目スルニ至ラスト雖トモ  
 其状恰モオウジマスノ牛圈ニ似タリト謂フヘ  
シ 養史 而載 三エ 十リ 年ス 久ノ 其王 經其 其不 潔テ 淨フ

僅ニ一日ノ勞ヲ以テ此業ヲ卒ヘリ  
 而シテ其端緒ヲ繹ネテ以テ之ヲ整頓シ井々序ア  
 ラシムルハ多少ノ心ヲ尽スニ非レハ為スコ  
 ト能ハサル猶ヘルケルスノ如シ今夫卿職ニ在  
 ル者ヲシテ專ラ其職ニ任ヌルヲ得セシメク其  
 辛勞亦從テ減ヌルヤ明シ然トモ大抵各省ノ長  
 官タル者ハ兩職ヲ兼任セリ而シテ其思慮敏捷到  
 テサル所々或ハ其不易ノ勤勞ヲ以テ優ニ負  
 任ヌル所ノ諸事ヲ裁決スルニ足ル者其中ニ就  
 テ蓋シ幾モナシ抑モ卿タル者ハ常ニ内務工部

陸軍海軍等ノ事務ヲ總理スルノミナラズ兼テ  
參議ノ職ニ任ス即太政官ノ列貞ニシテ太政官  
ハ則日本國大權ノ歸スル所ナルカ故ニ其參議  
タルヤ各省ノ卿タルヨリハ地位益貴ク行ノ所  
ノ權勢愈強シ故ニ其平常心ヲ用ユル所自ラ卿  
職ノ域外ニ出テ廣ク全國ノ事ニ注視スルニ是  
勢ノ自然ニシテ殊ニ其區々トシテ僅ニ一省ノ  
規程ヲ遵守スルヨリハ國內ノ事務ヲ總理スル  
ヲ以テ心ニ快シトスルハ人情ノ常ナルカ故ニ  
リ是ヲ以テ其所管省中ノ事務ヲシテ屢々多少

不艱害ヲ蒙ルヲシヨルニ至ル其レ斯クヤ  
ルヲ以テ此重任兼帶ノ利害ハ議者之ヲ論スル  
甚タ多シ而シテ方今依然トシテ其旧慣ニ由テ  
改メザルモハ急遽改革ヲ行ハントスルハ事  
變ヲ激生スルノ恐レアリ日本ノ國勢未タ此ニ  
至ラサルヲ以テナリ然レトモ又其甲職能ク舉  
リテ而シ其乙職モ亦敢テ之ヲ墜テハル者アリ  
今日ノ大藏省即テ其例ニシテ其國財ヲ管理ス  
ルノ法至レト謂フヘク若シ此法ヲシテ永ク  
歲月ノ外ニ行ハレシメハ竟ニ當ニ其多年費心

講究シテ今未タ至ル能ハサル所ノ完美ノ地位  
ニ達スヘキヤ必セリ

我輩既ニ歳計表上ニ發見シタル大隈公ノ才カ  
ヲ概論シタリ而シテ其才カハ果シテ何ノ處ニ顯  
ハレタルヲ問ヘハ即テ前文述フル所ノ事實ニ  
在リテ後來各省ノ長官タル者ハ高貴ノ位階ヲ  
得頗ル其權限ヲ擴メ限内ノ事務ヲ處スルニ掣  
肘ヲ受タル所ナカリシヲ大隈公始メテ之ヲ醫  
セントセリ今ラ距ルト幾モナク總テ參議タル  
者ハ其所管ノ事務ヲ調理スルニ專任特行殆シ

ト其類ヲ見サレカ如クナリシ迄時ニ至ツテ此  
權少シク制限セラルト雖モ今日其餘習ノ  
尚存スル者アリテ擅意ニ其省中ノ事務ヲ裁シ  
中ニ就テ一人ノ心ヲ以テ一省ノ定額ヲ断スル  
カ如キハ其最モ大ナル者トス夫貨幣ヲ以テ勢  
カノ源トナスハ獨リ日本ノミナラス全地球ノ  
通弊ナリ是ヲ以テ其執政タル者自由ニ貨幣ヲ  
使用スルヲ以テ最大ノ目的トナセリ蓋シ其意  
固リ姦曲ヲ謀ルニ便スルニ非ス大抵ハ公事ノ  
善ヲ謀ルニ出ツト雖モ終或ハ私事ノ果ヲ結フ

者ナシトセス然ルニ國家ノ貸財ヲ以テ其人ニ  
付シ其爲ント欲スル所ヲ擅ニスルコト此ノ如  
ク殆ト底止スル所ヲ知ラスハ縱ニ善ク節儉  
ノ方ヲ設ケント欲スルモ終ニ得ヘカラス然リ  
而シテ積習ノ餘勢一朝權官ヲシテ自カラ警メ  
此特權ヲ拋棄セントテ期スルハ事理ノ得ヘカ  
ラサルモノニシテ憂國者輩ハ之ヲ浩歎ニ付ス  
ト雖モ未ダ之ヲ救ノ道ヲ得ヌ大隈公ハ其職ニ  
任セシ以來其欲スル所其勉ムル所此弊ヲ節制  
スルハ一点ニ歸スルヲ以テ衆人ノ信ヲ得タル

ハ人ニ能ク知ル所ニシテ公ノ意終ニ大ニ各廳  
ノ費用ヲ省減スルノ順序ヲ立テ兼テ全國ノ財  
權ヲ収攬スルニアリ而シテ此會計預算表ハ則其  
第一歩ニシテ其狀又々最モ完全ニシテ實効ヲ  
ル者ノ如シ其預算表タルヤ冠スルニ太政大臣  
ニ呈スル書及テ例言ヲ以テセリ今此レヲ約畧  
シテ以テ左ニ奉ク其全文ノ如キハ讀ム者宜レ  
ノ原紙ニ就テ見ルヘシ

豫算ハ濫費ノ弊ヲ抑制シ理財ノ念ヲ擴張  
スルカタマ切要ナルモノトス故ニ苟モ此



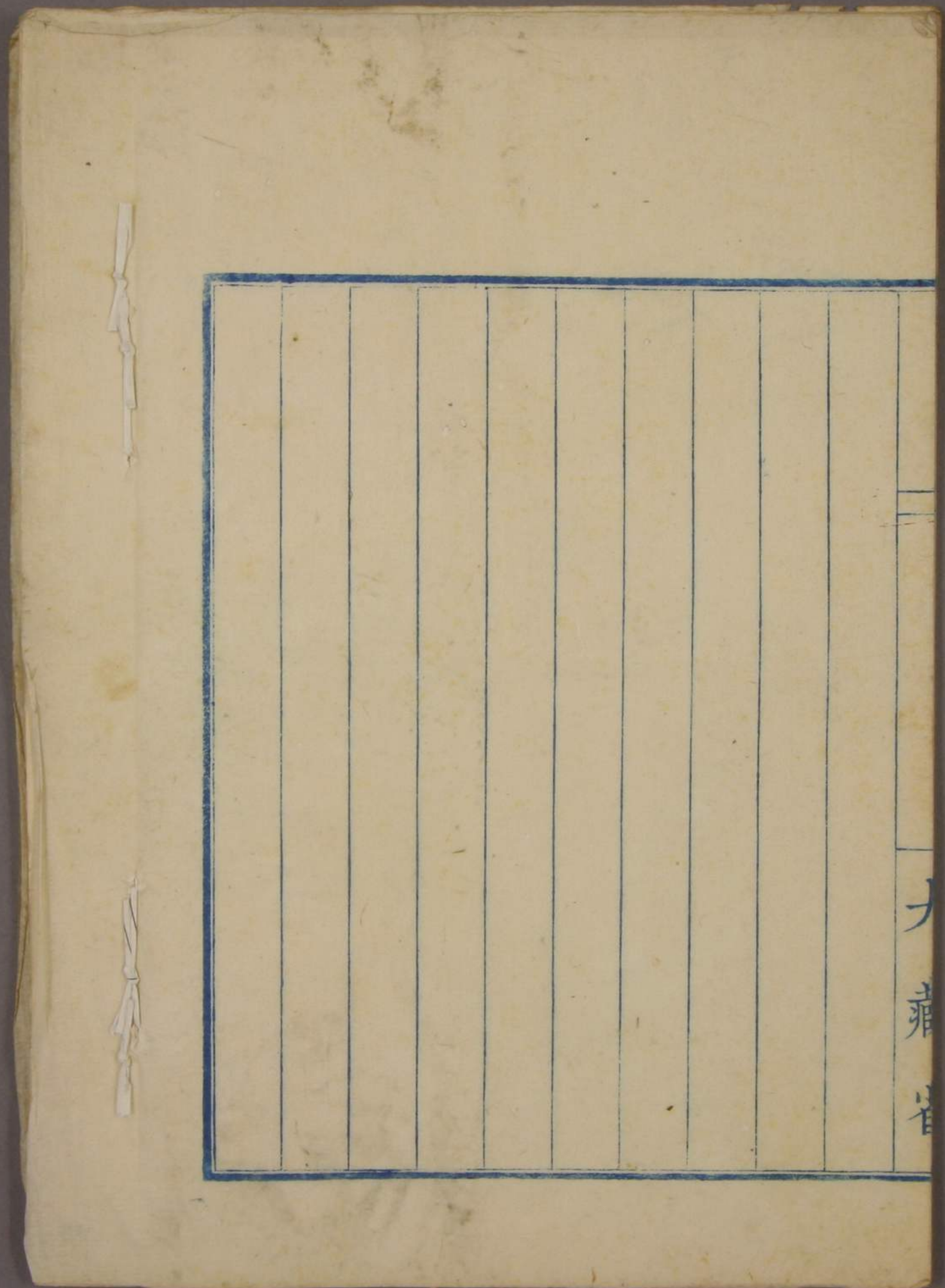
意ヲ体セサレハ權官各其意ノ在レ所ニ從  
テ事ヲ生シ又其心解弛シテ警ムルヲ知ラ  
ス宜シク許スヘカラスナルノ請求ヲ許シ當  
ニ省クヘキノ用費ヲ増スノ害ヲ生シ上溢  
下漏遂ニ茲ニ定ムル所ノ數額ニ踰ユルニ  
至ラハ此表ト雖トモ無用ノ簿冊タルニ過  
キニ而ノ預算ノ實効ヲ見サレニ終フルノ  
各廳ノ經費ハ各其開申スル所ニ從ヒ其前  
年支消スル所ノ實數ニ照ラシテ今日ノ數

ヲ算出シ其臨時ノ請求ニ供スル所ノ大藏  
省預備金ハ復々之ヲ設ケス何トナレハ今  
日其歳費ノ數額既ニ確定スルヲ以テ其定  
額ヲシテ需用ニ供スルニ足ラシムル故ナ  
リ而ノ後來其不時ノ用費アルタノニ定額  
ノ數ヲ踰越スルヲ許サス  
抑モ各廳ノ長官ヲ收束シテ普ク此ノ如キニ至  
ラシノシハ他國ニ在ラハ甚々稱賛スルニ足ラ  
スト雖モ日本國ニ於テハ大藏卿ノ一大功蹟ト  
謂ハサルヘカラス今日ヨリ以降始テ國家經費

支出、途肅然序アリ無用、事不急、業亦是ヨ  
リ、輟マシ又各省、長官參議、職ヲ以テ其省定  
額、増加ヲ請求スル、權アリト云フ然レトモ  
其許可ヲ得ルニハ必ス同列、美認ヲ得サルヘ  
カラス而シテ是、時ニ方リ其曾テ自ラ署シテ  
出ス所、數額ヲ把テ詰問セザル、キハ亦之ヲ  
辯スルハ、辞ナカルヘキナリ其理財改正、論ハ  
是ニ於テ閣筆シ別ニ一事ノ論スヘキコトアリ  
其事ハ則チ近時政治上ノ一改革ニシテ按スルニ蓋シ  
近日諸省章程ノ改此ニ由テ諸省ヲシテ互ニ相  
革ヲ謂フナラン

親睦憑依セシメ此事前日嘗テ無キ所互ニ相推  
問シテ事情ニ通セシメ又其長官ノ獨リ一己ノ  
私見ヲ以テ曾テ内閣ニ稟議セズ安リニ大事ヲ  
奉行スルノ宿弊ヲ矯正スルコトヲ得タリ是レ  
實ニ一大美事ニシテ其成績如何ハ未タ今日ニ  
豫トス可カラスト雖トモ此事日本内治ノ方制  
ニ於テ異日之カ一大節目ヲ為サズンバアラス且  
今日ニ在テハ極メテ平坦容易ノ改革ニ似タリ  
ト虽其効益或ハ戦争干戈ノ得テ及フヘカラ  
サルモノアラン





大藏書